

## 第31期 事業報告書

自 令和3年10月1日  
至 令和4年9月30日

### ◇事業活動の現況に関する事項

#### 1. 事業の全般的状況及びその成果

31期売上高前年度比+15.4%と目標としていた+5%を上回る良い結果となった。29期から販促に注力してきた高い周波数帯のプローブの販売数が伸び、高周波プローブの技術延長線にあるビジネスとして開始した測定装置、受託サービスが順調に成長した。

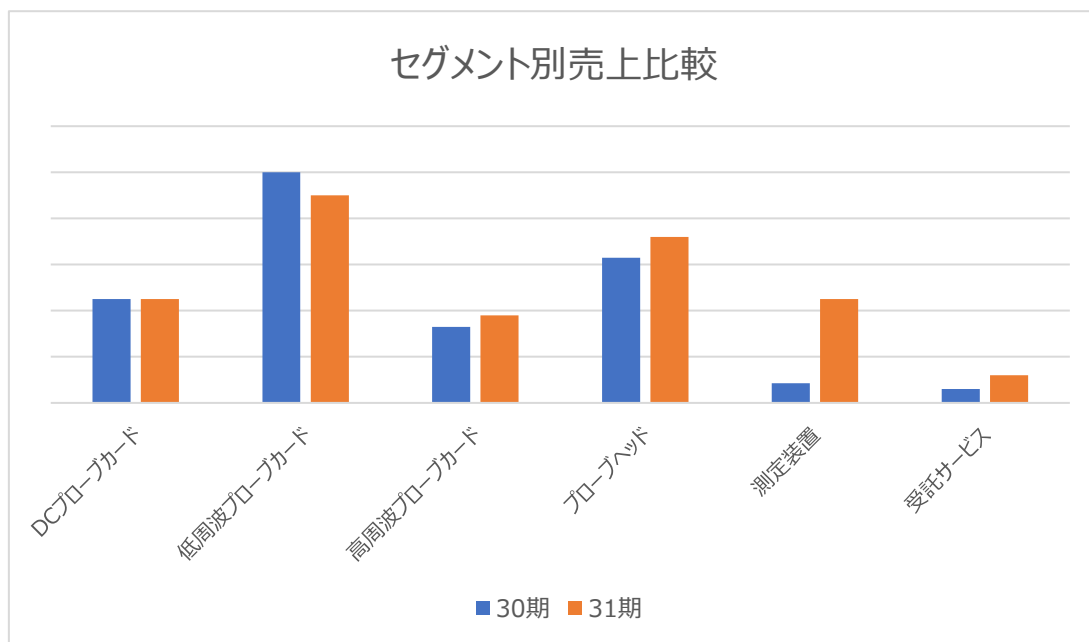
純利益も前期比+49%と大幅に改善（前年度-1%）。これは昨年度より開始した測定装置や受託サービスのビジネスの最適化が大きな要因だと考えられる。

当社の主要顧客からの見解では、当社の32期（2022年10月～2023年9月）は量産製品の生産調整が発生する為、量産向けの受注が減る見込みである為、研究所（国研、大学）等を中心に33期、34期に繋がる販促活動、将来に繋がる開発を実施したい。

#### 2. 売上高状況

	売上高(前年度比)	純利益(前年度比)
31期(2021/10/1~2022/9/30)	+15.4%	+49%

#### 【セグメント別売上】



3. 資金調達状況

31期：新規借入はありません。

4. 設備投資状況

31期：新規導入設備はありません。

5. 従業員の状況（系列会社を含む）

従業員数（内パート従業員数）	前期末比	平均年齢
29名（内5名）	2人増	38.81歳

29期より3期連続で年間2名の採用を行えている。従業員の定着率も高いことから会社が従業員に対して期待するスキルを個人目標としてマネジメント側が管理し、従業員のスキル向上に取り組んでいる。30期、31期と賃上げも実施できた。給与体系は29期までの年功序列型から30期からジョブ型の給与体系にシフトした事により、個々が明確な目標を持ち業務を遂行できる様になり社内全体の品質が向上している。

2022年11月30日現在